

陸游目次

凡例 1

解説

送_ニ王景文_一（王景文を送る）（卷一） 四六
夜夢從_ニ數客_一、雨中載_レ酒出遊、山川城闕極_ニ雄麗、云_ニ長
安_ニ也。因與_レ客馬上分_ノ韻作_レ詩、得_ニ遊字_一（夜
夢に
數客_ニ從ひて、雨中に酒を載せて出でて遊べば、山川城
闕_ニ雄麗を極め、長安と云ふ。因りて客と與に馬上に韻を
分かちて詩を作り、遊字を得たり）（卷一）

別_ニ會學士_一（會學士にわける）（劍南詩稿_一） 三
送_ニ仲高兄宮學秩滿赴_ニ行在_一（仲高兄_ニ宮學の秩滿ちて行
在_ニ赴_クを送る）（卷二） 三
釵頭鳳_{（釵頭鳳）} 元

二月二十四日作_{（二月二十四日に作る）}（卷一） 三
送_ニ陳德邵宮教赴_ニ行在_ニ二十韻<sub>（陳德邵宮教の行在に赴く
を送る）</sub>（卷二） 三
聞_ニ武均州報_ニ已復_一西京_一（武均州_ニ已に西京を復すと報ず
るを聞く）（卷二） 三

喜_ニ小兒輩到_ニ行在_一（小兒の輩_ニ行在に到るを喜ぶ）（卷一）

出_レ都_{（都を出づ）}（卷二） 三
將_レ赴_ニ官夔府_ニ書_レ懷<sub>（将に官に夔府に赴かんとして懷ひを
おもむ）</sub>（卷二） 三

第一部

出_レ都_{（都を出づ）}（卷二） 三
將_レ赴_ニ官夔府_ニ書_レ懷<sub>（将に官に夔府に赴かんとして懷ひを
おもむ）</sub>（卷二） 三

第二部

將_レ赴_ニ官夔府_ニ書_レ懷<sub>（将に官に夔府に赴かんとして懷ひを
おもむ）</sub>（卷二） 三

- 書す) (卷一) 一六
 黃州 (黃州) (卷二) 一七
 哀_レ郢 一首 其一 (郢を哀しむ 一首 其の一) (卷二) 一八
 石首縣雨中繫_レ舟、戲作_ニ短歌一 (石首縣にて雨中に舟を繫ぎ、戯れに短歌を作る) (卷一) 一九
 黃牛峽廟 (黃牛峽廟) (卷二) 二〇
 巴東遇_ニ小雨二首 其一 (巴東にて小雨に遇ふ一首 其の一) (卷一) 二一
 巴東遇_ニ小雨二首 其一 (巴東にて小雨に遇ふ一首 其の二) (卷二) 二二
 雪晴 (雪晴る) (卷一) 二三
 初夏懷_ニ故山一 (初夏 故山を懷ふ) (卷二) 二四
 懷_ニ重陽 (夔州の重陽) (卷二) 二五
 追_ニ懷曾文清公一 (曾文清公を追懷して趙教授に呈す、趙近_ニ嘗て詩を示さる) (卷二) 二六
 飯三折舗、舗在_ニ亂山中一 (三折舗に飯か、舗は亂山の中) (卷三) 二七
 に在り) (卷三) 二八
 聞_ニ杜鵑一 戲作_ニ絕句一 (杜鵑を聞きて戯れに絶句を作る) (卷二) 二九
 (卷二) 三〇
 駄 三一
 駄 三二
 然不能已、因賦_ニ此詩一 (余往宇文叔介と同に山南に客たり。今年叔介臨安に客死す。十月十一日夜忽ち夢に相ひ從ふ。架上の書を取りて共に讀むこと平生の如し。讀みて未だ竟はらざるに忽ち辭し去り、之を留むるも可ならずして、「歸りて藥方を校せんと欲す」と曰ふ。既に覺むれば泫然として已む能はず、因りて此の詩を賦す) (卷四) 三三
 無題 (無題) (卷四) 三五
 題_ニ龍鶴菴帖一 (龍鶴菴帖に題す) (卷四) 三七
 宿_ニ杜氏莊晨起遇_ニ雨 (杜氏の莊に宿し晨に起きて雨に遇ふ) (卷五) 三九
 故袍 (故袍) (卷五) 三九
 秋夜讀_ニ書戯作 (秋夜書を讀みて戯れに作る) (卷五) 四一
 太平花 (太平花) (卷五) 四一
 臥_ニ病 (病に臥す) (卷五) 四二
 夜食_ニ炒栗_ニ有_レ感 (夜炒栗を食して感有り) (卷五) 四三
 江上對_ニ酒作 (江上酒に對して作る) (卷六) 四四
 自嘲 (自嘲) (卷六) 四五
 戲詠_ニ西州風土 (戯れに西州の風土を詠す) (卷六) 四六
 繼 三七
 賴牟鎮早行 (賴牟鎮早行す) (卷六) 一四
 聞_ニ仲高從兄訃一 (仲高從兄の訃を聞く) (卷六) 一五
 成都書_ニ事 二首 其一 (成都事を書す 二首 其の一) (卷六) 一五
 午寢 (午に寝ぬ) (卷六) 一五
 遊_ニ東郭趙氏園 (東郭の趙氏の園に遊ぶ) (卷七) 一七
 遣_ニ興 (興を遣る) (卷七) 一八
 痘_ニ起書_ニ懷 二首 其一 (病より起きて懷を書す 二首 其の一) (卷七) 一九
 耕 (躬耕) (卷七) 一九
 客自_ニ鳳州來言_ニ岐雍閒事、悵然有_レ感 (客りて岐雍の閒の事を言ふ、悵然として感有り) (卷七) 二〇
 蒙_ニ恩奉_ニ祠桐柏 (恩を蒙りて祠を桐柏に奉る) (卷七) 二一
 和_ニ范待制秋日書懷_ニ二首 (游自_ニ七月病起、蔬食止酒、故詩中及_ニ之) 其一 (范待制の「秋日書懷」二首) に和す。游_ニ七月に病より起ちしより、蔬食し酒を止む、故に詩中_ニ之に及ぶ 其の二) (卷七) 二二
 金牛道中遇_ニ寒食一 (金牛の道中 寒食に偶ふ) (卷三) 五五
 秋波媚 (秋波媚) 五七
 嘉川舗得_ニ檄遂行、中夜次_ニ小柏一 (嘉川の舗にて檄を得て遂に行き、中夜小柏に次る) (卷三) 五九
 初離_ニ興元一 (初めて興元を離る) (卷三) 一〇〇
 自_ニ興元赴_ニ官成都 (興元より官に成都に赴く) (卷三) 一〇一
 劍門道中遇_ニ微雨一 (劍門の道中 微雨に遇ふ) (卷三) 一〇七
 成都歲暮始微寒、小酌遣_ニ興 (成都歲暮始めて微かに寒く 小酌して興を遣る) (卷三) 一〇八
 社日 (社日) (卷四) 一〇九
 九月六夜夢中作_ニ笑詩_ニ覺而忘_ニ之、明日戲追_ニ補_ニ一首一 (九月六夜 夢中にて笑詩を作るも覺めて之を忘る、明日戲に一首を追補す) (卷四) 一一〇
 夜讀_ニ岑嘉州詩集一 (夜 岑嘉州の詩集を讀む) (卷四) 一一〇
 余往與_ニ宇文叔介同客_ニ山南一 今年叔介客_ニ死臨安。十月十一日夜、忽夢相從。取_ニ架上書_ニ共讀如_ニ平生。讀未竟忽辭去、留_ニ之不可、曰_ニ「欲_ニ歸校_ニ藥方_ニ」。既覺法
 中 之に及ぶ 其の二) (卷七) 一一一

- | | |
|--|--|
| 芳華樓夜飲 二首 其一 (芳華樓にて夜に飲む一首) (卷八) | 丁酉上元 三首 其三 (丁酉の上元 三首 其の三) (卷八) |
| 大醉歸南禪弄影月下有レ作 (大きいに酔ひて南禪に歸り影を月下に弄びて作る有り) (卷八) | 豊橋旅舍作 (豊橋の旅舍にて作る) (卷八) |
| 雨中山行至松風亭忽澄霧 (雨中 山行して松風亭に至れば忽ち澄霧す) (卷八) | 雨中山行至松風亭忽澄霧 (雨中 山行して松風亭に至れば忽ち澄霧す) (卷八) |
| 飯罷戲作 (飯ひ罷はりて戯れに作る) (卷九) | 飯罷戲作 (飯ひ罷はりて戯れに作る) (卷九) |
| 玉局觀拜東坡先生海外畫像 (玉局 觀にて東坡先生の海外畫像を拜す) (卷九) | 玉局觀拜東坡先生海外畫像 (玉局 觀にて東坡先生の海外畫像を拜す) (卷九) |
| 晚登子城 (晩に子城に登る) (卷九) | 草堂拜少陵遺像 (草堂にて少陵の遺像を拜す) (卷九) |
| 大風登城 (大いに風ふきて城に登る) (卷九) | 大風登城 (大いに風ふきて城に登る) (卷九) |
| 一笑 (一笑) (卷九) | 一笑 (一笑) (卷九) |
| 感興 二首 其一 (感興 二首 其の一) (卷九) | 感興 二首 其一 (感興 二首 其の一) (卷九) |
| 訪三青神尉廨借景亭、蓋山谷先生舊遊也 (青神尉廨の借景亭を訪ねて、蓋山谷先生舊遊也) (卷九) | 訪三青神尉廨借景亭、蓋山谷先生舊遊也 (青神尉廨の借景亭を訪ねて、蓋山谷先生舊遊也) (卷九) |
| 夢至成都悵然有レ作 (夢に成都に至り悵然として作る有り) (卷一〇) | 夢至成都悵然有レ作 (夢に成都に至り悵然として作る有り) (卷一〇) |
| 行三牌頭奴寨之間、皆建炎末避賊所レ經也 (牌頭奴寨の間を行く、皆な建炎の末賊を避けて經し所なり) (卷一〇) | 行三牌頭奴寨之間、皆建炎末避賊所レ經也 (牌頭奴寨の間を行く、皆な建炎の末賊を避けて經し所なり) (卷一〇) |
| 雨夜 (雨夜) (卷一一) | 雨夜 (雨夜) (卷一一) |
| 風月 (風月) (卷一二) | 風月 (風月) (卷一二) |
| 奏乞奉祠、留三衢州皇華館待命 (奏して祠を奉ずるを乞ひ、衢州の皇華館に留まりて命を待つ) (卷一二) | 奏乞奉祠、留三衢州皇華館待命 (奏して祠を奉ずるを乞ひ、衢州の皇華館に留まりて命を待つ) (卷一二) |
| 六日小飲、園中光景鮮妍、紅梅已拆、恍記在果州一時上、偶得絶句 (六日 小飲す、園中の光景 鮮妍にして、紅梅已拆ぎ、恍として果州に在りし時を記し、偶ま絶句を得) (卷一二) | 六日小飲、園中光景鮮妍、紅梅已拆、恍記在果州一時上、偶得絶句 (六日 小飲す、園中の光景 鮮妍にして、紅梅已拆ぎ、恍として果州に在りし時を記し、偶ま絶句を得) (卷一二) |
| 齒痛有レ感 (齒痛みて感有り) (卷一二) | 齒痛有レ感 (齒痛みて感有り) (卷一二) |
| 大雨跡一句既止復作江遂大漲 二首 其二 (大雨 旬を跡す) (卷一二) | 大雨跡一句既止復作江遂大漲 二首 其二 (大雨 旬を跡す) (卷一二) |
| え、既に止むも復た作る、江遂に大いに漲る 二首 其の二 (卷一二) | え、既に止むも復た作る、江遂に大いに漲る 二首 其の二 (卷一二) |
| 第三部 | 第三部 |
| 懷成都十韻 (成都を懷ふ十韻) (卷一〇) | 懷成都十韻 (成都を懷ふ十韻) (卷一〇) |
| 夜夢下與三宇文子友譚德稱會山寺、若ち餞予行者。明日黎明、得子友書、感嘆久之、乃作此詩 (夜宇文子友、譚德稱と山寺に會し、予の行を餞するが若きを夢む。明日の黎明、子友の書を得たれば、感嘆すること之を久しく述べ、乃ち此の詩を作る) (卷一〇) | 夜夢下與三宇文子友譚德稱會山寺、若ち餞予行者。明日黎明、得子友書、感嘆久之、乃作此詩 (夜宇文子友、譚德稱と山寺に會し、予の行を餞するが若きを夢む。明日の黎明、子友の書を得たれば、感嘆すること之を久しく述べ、乃ち此の詩を作る) (卷一〇) |
| 風入松 (風入松) | 風入松 (風入松) |
| 冬夜泛舟有レ懷山南戎幕 (冬夜 舟を泛かべて山南の戎幕を懷ふ有り) (卷一〇) | 冬夜泛舟有レ懷山南戎幕 (冬夜 舟を泛かべて山南の戎幕を懷ふ有り) (卷一〇) |
| 乾道初、予自臨川歸鍾陵、李德遠范周士送別于西津。是日宿戰平、風雨終夕。今日臨川之高安、復以雨中宿戰平、悵然感懷 二首 其一 (乾道の初、予臨川より鍾陵に歸るに、李德遠・范周士 西津に送別す。是日の戦平に宿するに、風雨終夕なり。今臨川より高安に之くに、復た雨中を以て戦平に宿し、悵然として感懷す 二首 其の一) (卷一二) | 乾道初、予自臨川歸鍾陵、李德遠范周士送別于西津。是日宿戰平、風雨終夕。今日臨川之高安、復以雨中宿戰平、悵然感懷 二首 其一 (乾道の初、予臨川より鍾陵に歸るに、李德遠・范周士 西津に送別す。是日の戦平に宿するに、風雨終夕なり。今臨川より高安に之くに、復た雨中を以て戦平に宿し、悵然として感懷す 二首 其の一) (卷一二) |
| 行至嚴州壽昌縣界、得レ請下許レ免入奏、仍除中外官、感恩述懐 (行きて嚴州の壽昌縣の界に至りて、入奏を免ずるを許し、仍ほ外官に除せられんことを請ふを得たり、思に感じて懐す) (卷一三) | 行至嚴州壽昌縣界、得レ請下許レ免入奏、仍除中外官、感恩述懐 (行きて嚴州の壽昌縣の界に至りて、入奏を免ずるを許し、仍ほ外官に除せられんことを請ふを得たり、思に感じて懐す) (卷一三) |
| 春晚雨中作 (春晚 風雨の中にて作る) (卷一三) | 春晚雨中作 (春晚 風雨の中にて作る) (卷一三) |
| 南堂臥觀月 (南堂 臥して月を觀る) (卷一三) | 南堂臥觀月 (南堂 臥して月を觀る) (卷一三) |
| 督下麥雨中夜歸 (麥を下くを督して雨中 夜に帰る) (卷一三) | 督下麥雨中夜歸 (麥を下くを督して雨中 夜に帰る) (卷一三) |

- (卷二三) 二七〇
 秋雨漸涼有懷興元 三首 其一 (秋雨漸く涼しくして
 興元を懷ふ有り 三首 其の二) (卷二五) 二七三
 其三 (其の三) (卷二五) 二七四
 擁爐 (爐を擁く) (卷二五) 二七五
 答鄭虞任檢法見贈 (鄭虞任檢法の贈らるるに答ふ)
 (卷二五) 二七六
 秋夜舟中作 (秋夜 舟中にて作る) (卷二六) 二七七
 自嘲 (自ら嘲る) (卷二七) 二七八
 夜歸 (夜に歸る) (卷二七) 二八〇
 江北莊取米到、作飯香甚、有感 (江北の莊より米を取
 りて到り、飯を作れば香しきこと甚だしくして、感する有
 り) (卷二七) 二八一
 丙午初冬、得心腹痛疾、大下、而愈羸耗不支、方在告
 臥燕堂東偏、聞民間前一夕被盜者、慨然有感 (丙
 午の初冬、心腹の痛疾を得て大いに下し、愈よ羸耗して支
 へず、方に告に在りて燕堂の東偏に臥するに、民間 前一
 夕 盗を被る者ありと聞き、慨然として感する有り)
 (卷二八) 二八〇
 晚眺 (晚眺) (卷二五) 二八六
 記夢 (夢を記す) (卷二五) 二八七
 醉倒歌 (醉倒歌) (卷二五) 二八八
 羣兒 (羣兒) (卷二六) 二九〇
 春社有感 (春社 感有り) (卷二七) 二九一
 春社 四首 其四 (春社 四首 其の四) (卷二七) 二九二
 戲詠 山陰風物 (戯詠 山陰の風物を詠す) (卷二七) 二九三
 秋夜感 舊十二韻 (秋夜 舊に感ず 十二韻) (卷二七) 二九四
 醉臥道旁 (醉ひて道旁に臥す) (卷二七) 二九五
 鳥啼 (鳥啼) (卷二九) 二九六
 老境 (老境) (卷三一) 二九七
 書病 (病を書す) (卷三三) 二九八
 夜閱箇中書、偶得李德遠數帖、因思昔相從時所、言
 後多可驗、感歎有作 (夜に箇中の書を閲するに、偶ま
 李德遠の數帖を得、因りて昔相ひ從ひし時に言ふ所、後に
 多く驗すべきを思ひ、感歎して作る有り) (卷三三) 二九九
 十月十七日、予生日也。孤村風雨蕭然、偶得二絶句。
 予生淮上。是日平旦、大風雨駭人、及予墮地、雨
 乃止 其一 (十月十七日、予が生日なり。孤村の風雨蕭
 衰病 (衰へ病む) (卷一八) 三〇四
 照潺湲閣下池水 (潺湲閣下の池水に照す) (卷一九) 三〇五
 喜小兒病愈 二首 其一 (小兒の病の愈ゆるを喜ぶ 二
 首 其の二) (卷一九) 三〇六
 夜坐示桑甥十韻 (夜坐 桑甥に示す十韻) (卷一九) 三〇七
 夜坐忽聞一村路報曉鐵牌 二首 其一 (夜に坐するに忽
 ち村路の曉を報する鐵牌を聞く 二首 其の二) (卷一九)
 九) 三〇八
 夜坐忽聞一村路報曉鐵牌 二首 其一 (夜に坐するに忽
 ち村路の曉を報する鐵牌を聞く 二首 其の二) (卷一九)
 九) 三〇九
 上書乞祠輒述鄙懷 (書を上りて祠を乞ひ、輒ち鄙懷を
 述ぶ) (卷二〇) 三一〇
 致齋監中、夜與同官縱談鬼神、效宛陵先生體 (齋
 を監中に致し、夜に同官と與に縱に鬼神を談じ、宛陵先
 生の體に效ふ) (卷二〇) 三一六
 第四部
 予十年間兩坐斥、罪雖擢髮莫數而詩爲首、謂之嘲
 古

- 江村初夏 (江村の初夏) (卷二三) 三一六
 新秋感事 二首 其二 (新秋 事に感ず 二首 其の二)
 (卷二三) 三一七
 得猫於近村 (以雪兒一名之戲爲作詩 猫を近村に得て雪
 兒を以て之に名づけ、戯れ爲に詩を作る) (卷二三)
 (卷二三) 三一八
 晨興 (晨に興く) (卷二四) 三一九
 秋日郊居 八首 其八 (秋日の郊居 八首 其の八)
 (卷二五) 三二〇
 三五

- 然たりて偶^ま二絶句を得。予淮上に生ず。是日の平旦、大いに風雨ありて人を駭かすも、予が地に墮つるに及ぶや、雨乃ち止む。其の一) (卷三三) 三八

山行 二首 其一 (山行) 三九

懷^レ舊 六首 其四 (舊を懷ふ) 六首 其の四) (卷三三) 三〇

讀^レ杜詩 (杜詩を讀む) (卷三四) 三一

秋夜紀懷 三首 其一 (秋夜) 懷を紀す 三首 其の一) (卷三三) 三二

(卷三五) 龜堂東窗戲弄^{筆墨}、偶得^二絶句 五首 其二 (龜堂の東) 三三

窓 戲れに筆墨を弄し、偶^ま絶句を得 五首 其の三) (卷三三) 三四

(卷三六) 龜堂東窗戲弄^{筆墨}、偶得^二絶句 五首 其二 (龜堂の東) 三五

十一月二十二日夜、待^ニ子聿^未歸 (十一月二十二日夜) 三六

子聿を待つも未だ歸らず) (卷三六) 三七

與^ニ子虞・子坦^坐三龜堂後東窗偶書 (子虞・子坦と與に龜堂の後の東窗に坐して偶^ま書す) (卷三七) 三八

感^レ舊 六首 其一 (舊に感ず) 六首 其の二) (卷三七) 三九

書^レ喜 三首 其三 (喜びを書す) 三首 其の三) (卷三七) 四〇

(卷四〇) 九月七日、子坦・子聿俱出歟^{粗穀}。雞初鳴而行、甲夜始歸。勞以^此詩 (九月七日、子坦・子聿俱に出でて粗穀を歎む。雞初めて鳴きて行き、甲夜始めて歸る。勞ふに此の詩を以てす) (卷四〇) 四一

示^ニ兒子^一 (兒子に示す) (卷四一) 四二

冬至夜坐作^{短歌} (冬至 夜に坐して短歌を作る) (卷四二) 四三

感^レ事示^ニ兒孫^一 (事に感じて兒孫に示す) (卷四三) 四四

追^ニ感往事^一 五首 其一 (往事を追感す) (卷四四) 四五

(卷四五) 其五 (其の五) (卷四五) 四六

貧甚賣^ニ常用酒杯^一、作^レ詩自戲 (貧甚だしくして常用の酒杯を賣り、詩を作りて自ら戯る) (卷四五) 四七

紹興辛酉、予年十七矣。距^レ今已六十年、追^ニ感舊事^一作^二 (卷四五) 四八

讀^レ書 (書を讀む) (卷四九) 四九

入^レ都 (都に入る) (卷五〇) 五〇

雜興十首、以下「貧堅^ニ志士節、病長^中高人情^一」爲韻 (其四) (雜興十首)、「貧は志士の節を堅くし、病は高人の何たるかを知らず) (卷四八) 五一

小雨偶出、隣里小兒競隨^ニ吾後。不^レ知^ニ其意何^也 (小雨偶^ま出づれば、隣里の小兒競ひて吾が後に隨ふ。其の意の何たるかを知らず) (卷四八) 五二

陳阜卿先生、爲^ニ兩浙轉運司考試官。時秦丞相孫、以^ニ右文殿修撰^一來就^レ試、直欲^ニ首選^一。阜卿得^ニ予文卷、擢置^ニ第一、秦氏大怒。予明年既顯黜、先生亦幾蹈^ニ危機、偶秦公薨遂已。予晚歲料理故書、得^ニ先生手帖、追^ニ感平昔、作^ニ長句^一以識^ニ其事、不^レ知^ニ衰涕之集^一也。陳阜卿先生、兩浙轉運司考試官たり。時に秦丞相の孫、右文殿修撰^一を以て來りて試に就き、直ちに首選たらんと欲す。阜卿、予の文卷を得て、擢びて第一に置けば、秦氏

歲首書^レ事 二首 其一 (歲首 事を書す) 一首 其の二) (卷三八) 五三

(卷三八) 菴中晨起書^ニ觸目^一 四首 其一 (菴中晨に起きて觸目を書す) 四首 其の二) (卷三八) 五四

二首 其一 (三山にト居してより、今三十有三年なり。屋陋なること甚だしきも地に餘り有り、數世の後、當に自ら一村を成すべし。今日病少しく聞なれば詩を作りて以て後人に示す) 一首 其の二) (卷三八) 五五

三山ト居、今三十有三年矣。屋陋甚而地有^レ餘、數世之後、當^ニ自^ラ一村を成すべし。今日病少しく聞なれば詩を作りて以て後人に示す) 一首 其の二) (卷三八) 五六

後、當^ニ自成^ニ一村。今日病少聞、作^レ詩以示^ニ後人^一 (卷三八) 五七

農家 (農家) (卷六八)	四六六
思 ^二 北鄰韓三翁西鄰因菴主南鄰章老秀才 二首 其一 (北鄰韓三翁・西鄰因菴主・南鄰章老秀才を思ふ 二首 にしゅ)	四六七
其の一) (卷六九)	四六八
其二 (其の二) (卷六九)	四六九
書 ^二 村落閒事 ^一 (村落閒の事を書す) (卷七〇)	四七〇
自 ^二 九里平水 ^一 至 ^二 雲門陶山 ^一 歷 ^二 龍瑞禹祠 ^一 而歸、凡四日 八首 其六 (九里平水自り雲門陶山に至り、龍瑞禹祠を 歷て歸る、凡そ四日 八首 其の六) (卷七〇)	四七一
秋日村舍 二首 其一 (秋日村舍 二首 其の二) (卷七一)	四七二
春遊 四首 其四 (春遊 四首 其の四) (卷七五)	四七三
病中觀 ^二 辛夷花 ^一 (病中 辛夷花を觀る) (卷七六)	四七四
感 ^二 物 ^一 (物に感ず) (卷七六)	四七五
幽居記 ^二 今昔事 ^一 十首、以 ^下 「詩書從宿好、林園無 ^中 俗 情 ^上 」爲韻 其一 (幽居記 ^二 今昔の事を記す 十首、「詩書 宿好に從ひ、林園俗情無し」を以て韻と爲す 其の 一) (卷七六)	四七六
初冬雜詠 八首 其二 (初冬雜詠 八首 其の三) (卷七七)	四七七
臥病雜題 五首 其四 (臥病雜題 五首 其の四) (卷八四)	四七八
農圃歌 (農圃の歌) (卷八五)	四七九
夢中行 ^二 荷花萬頃中 ^一 (夢中 荷花の萬頃の中を行く) (卷八五)	四八〇
示 ^レ 兒 (兒に示す) (卷八五)	四八一
陸游略年譜	四八二
陸游關連地図	四八三
詩題索引	四八四
臥病雜題 五首 其一 (冬日齋中 卽事 五首 其の 一) (卷七九)	四八五
冬日齋中 卽事 六首 其一 (冬日齋中 卽事 六首 其の 一) (卷七九)	四八六
聞 ^二 吳中米價甚貴二十韻 ^一 (吳中 米價甚だ貴しと聞く 二十 韻) (卷八〇)	四八七
書 ^レ 耄 (耄を書す) (卷〇)	四八八
時鳥 (時鳥) (卷八二)	四八九
村居卽事 (村居卽事)	四九〇
嘉定己巳立秋 得 ^二 膈上疾 ^一 近 ^二 寒露 ^一 乃小愈 十二首 其 六 (嘉定己巳立秋、膈上の疾を得るも、寒露に近くして 乃ち小や愈ゆ 十二首 其の六) (卷八四)	四九一